

1 旧割烹小幡イメージパース（外観正面）

全体テーマ

割烹小幡楼が輝いていた明治末から大正にかけての風景を再現することをテーマとする。

和館の北側は欄干も含め大正あるいは明治の時代のまま残っている可能性が高いので入母屋屋根の玄関を含め、補修をして活用する。東、南、西面については、腐朽の程度が著しく、耐震補強工事の障害ともなる下屋部分を取り払うことで、明治後期から大正にかけての全体的な形状が概ね復元されると考えられる。湊から仰ぎ見る楼としての屋根や庇の表情も当時のものに近い形を目指す。一方、活用の面から、和館1階の人が出入りする部分や居住性能に関わる部分については、アルミサッシへの置き換えや、窓や出入口の設置などを行う。これにより、改変や増改築が繰り返されてきた下屋で覆われていた部分については新しい現代的な表情が付け加わることになる。

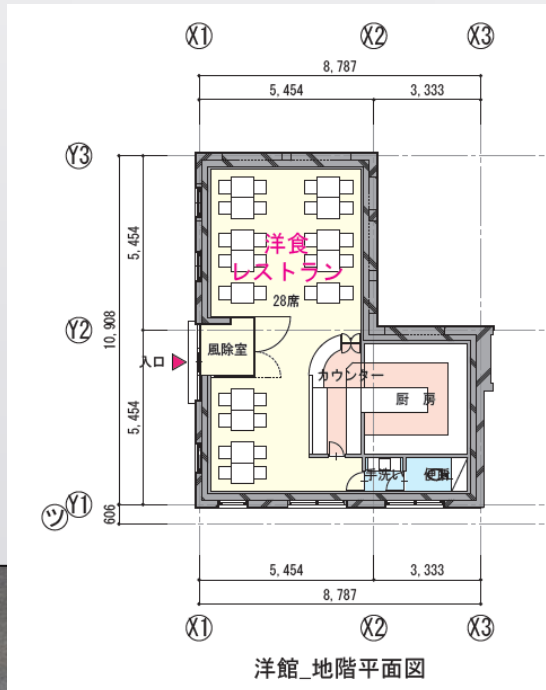


2 旧割烹小幡イメージパース（洋館地階）

洋食レストラン（洋館地階）（長期独占エリア）

～酒田フレンチの源流となるレストランの再生～

築地の精養軒で修業したシェフ2人が洋食を提供した歴史的な場所を28席の客席ホールをもつ洋食レストランとして再生する。大正の創建当時の美しいレリーフの施された漆喰天井を間接照明で照らし、漆喰に反射した柔らかい光で空間全体を包み込むようにする。大正の創業時に提供されたメニューを再現できるような広さをもつ厨房を用意する。

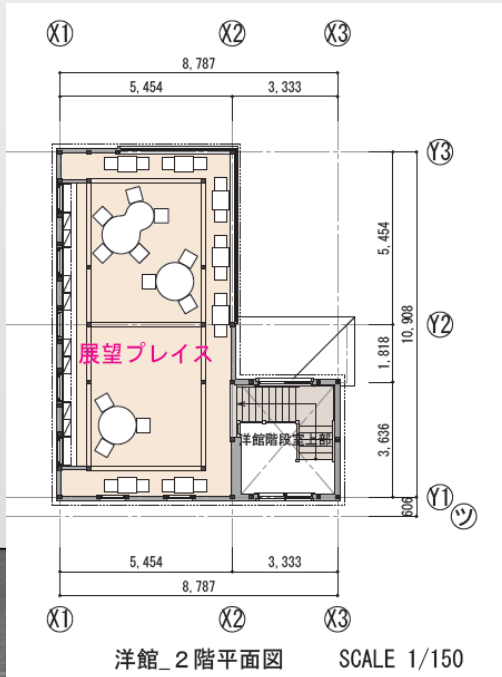


3 旧割烹小幡イメージパース (洋館2階)

展望プレイス (洋館2階) (長期独占エリア)

～まちへの眺望を活かしたみんなの集まる場所～

洋館の2階からは、まち (東側、中町方面) への素晴らしい眺望が楽しめる。壁を撤去し、背後にある北側の窓を活かすことで、4面すべてに窓のある明るく開放的で眺望の良い部屋となる。集会や各種ワークショップなど様々な使い方が想定できる。

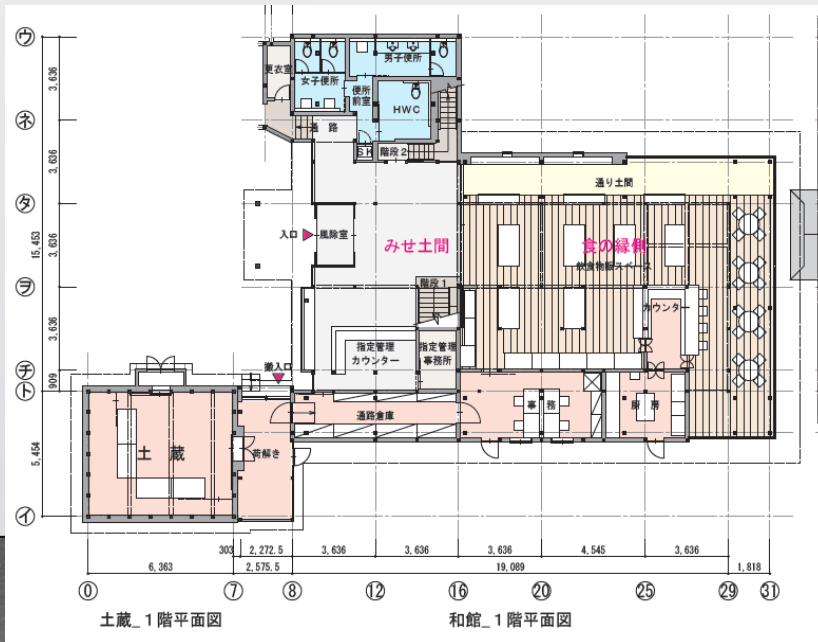


4 旧割烹小幡イメージパース（和館1階入り口）

みせ土間（和館1階）（指定管理エリア）

～酒田町家の雰囲気を活かしたおもてなし空間～

創建当初は土間であった可能性が高い場所。町家の雰囲気を伝えるために床と天井を取り払い土間空間とする。みせ土間はエントランスホールでもあり全館の案内所としてカウンターを置く。また土間の雰囲気を活かした展示ホールでもあり、酒田の食文化の歴史をパネル展示したり、関連する物品陳列をしたりすることが可能である。

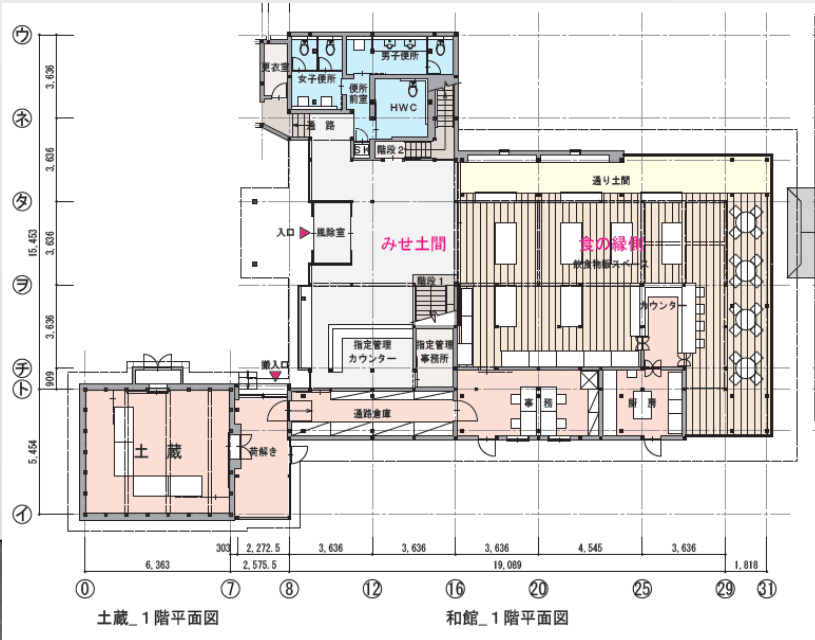


5 旧割烹小幡イメージパース (和館1階)

食の縁側 (和館1階) (長期独占エリア)

～米どころ酒田の食の伝統を味わい学ぶ場～

町家の通り土間に沿って奥に向かうと、三方向が庭に開放された開放的な雰囲気のある食のテラスがある。山居倉庫と同様に、天井を貼らず木造の柱や梁が組み合わされた様子がそのまま見える。床は堅木の板の間となっている。ここは、山居倉庫が象徴する米どころ酒田の伝統的な食文化を味わい、体験し、学ぶ場所である。伝統的な食に関する展示や物品の販売とともに、豊かな食文化を味わう飲食スペースでもある。軽飲食程度の厨房や事務室も西側のゾーンに用意されている。



6 旧割烹小幡イメージパース (和館2階)

湊の見える大広間 (和館2階) (指定管理エリア)

～展示、集会、市民活動など多様に利用される座敷～

湊の見える大広間は、小幡「楼」の中核部分である。明治初期の書画が見つかった床の間などの造作を活かし、なるべく昔のたたずまいを伝えるようにする。放置後の雨漏りにより天井が落下しているため、天井を撤去するが、これにより建築的には貴重な珍しい小屋組みや歴史的な変遷を追うことができる。

外国人にも、座敷の空間そのものが酒田の料亭文化を伝える魅力施設となりうるだけでなく、住民の様々な活動の場所を提供することができる。北面の窓際のみ、創業時(あるいはそれに近い)の形式が残っているためそのまま保存するが、それ以外の部分については、アルミサッシに入れ替えて、区画もできるようにすることで冬季の居住性能も向上させる。

